

山梨森林管理事務所長が語る

(前) 所長 小川 俊

1 はじめに

皆様は、山梨と言えば何を思い浮かべますでしょうか。

私が平成27年4月の赴任当初に抱いていた山梨のイメージは、「富士山」、「武田信玄」、「ほうとう」といったステレオタイプなものばかりでした。しかし、当然ではありますが、山梨には知れば知るほど深く多様な魅力があり、私は、これまでの約2年間、愛すべき山梨ワールドにどっぷりと漬かって、毎日をととても楽しく過ごすことが出来ました。

2 山梨の自然の魅力

まず、感激したのは自然の豊かさと身近さです。

甲府盆地は、富士山をはじめ南アルプス山系、八ヶ岳、秩父山系、大菩薩嶺等の高く美しい山々に囲まれています。日本百名山のうち実に12座が山梨県にあり、長野県の30座に次いで2番目に多くなっています。山梨百名山というものも選定され、体力度と技術的難易度に応じたグレーディングがなされており、初心者でも自分のコンディションに合わせて登る山を選べる環境が整っています。



南アルプス林道から臨む北岳と間ノ岳

山が多ければ森林も多く、県土面積に占める森林面積の割合は77.8%と、全国有数の高い森林率となっています。標高差が大きいこともあり、植生も実に多様です。また、これらの山々に面して、富士五湖や昇仙峡、清里、西山溪谷といった風光明媚な景勝地がいくつも存在しており、四季折々、場所それぞれに違った美しい風景が楽しめます。



西山溪谷の七ツ釜五段の滝

余談ですが、山梨県は海なし県という自虐的な冗談を聞くことがあります。しかし、しょっぱい塩水がないだけで、山と森に育まれた美味しい真水はふんだんにあります。ミネラルウォーターの出荷額は全国第一位であり、東京都民、神奈川県民、静岡県民にとって重要な水源林が存在しています。

3 山梨の歴史の魅力

素晴らしいのは自然だけではありません。山梨には歴史的価値がある遺跡や神社仏閣等がたくさん残っています。

信虎・晴信（信玄）・勝頼の武田家三代にゆかりがあるものだけでも、かつての居館であった躑躅ヶ崎館跡（現在の武田神社）や詰城の要害城跡、釜無川等に築堤された日本最古の大規模治水施設である信玄堤、信玄公の菩提寺である恵林寺（鎌倉時代に夢窓疎石が開山して庭も有名）等々…枚挙にいとまがありません。

時代を遡れば、旧石器時代－縄文時代－弥生時代にかけての遺跡や石器、土器、土偶などが多数発掘されています。甲府市南部の曾根丘陵を中心に大きな古墳群も発掘されており、古くから人が住み栄えていたことが偲ばれます。

また、それ以降のそれぞれの時代に造営され、記録や逸話が残っている立派な社寺、例えば各地の浅間神社や国宝の大善寺、日蓮宗総本山の身延山久遠寺等々、多数の名所旧跡が、決して広くはない可住地を中心にぎっしりとひしめいています。この地に築かれてきた甲斐の国の文化が、脈々と守られ続けてきたことに感銘を受けます。

4 週末は山梨にいました

山梨森林管理事務所が位置する甲府の市街地は、県庁所在地で何かと便が良いばかりか、ふと思い立って少し車を走らせるだけで、このような素晴らしい自然や歴史へ簡単にアクセスが出来る、とても恵まれた立地にあります。

そこで、山梨にいる間に山梨を目一杯満喫しようと心に決めて、何もない週末は家族と一緒に方々をドライブして回りました。郊外の国道や県道、広域農道はほぼ走破し、各地のめぼしい名所旧跡を多数見聞することが出来ました。

クリスタルライン（県北部森林地帯を通り北杜市清里と山梨市牧丘を結ぶ山岳ルート）等の一般開放された林道へのドライブは、サファリパークにばかり行きたがる息子から譲歩を引き出す代替案として大変重宝しました。道に出てきて子供達を喜ばせてくれたシカやカモシカ、サル、キツネ等の動物達にはとても感謝しています。（獣害対策でシカに譲歩はしませんが…。）



ホンドギツネ

5 登山について

まだ子供達が小さくて手がかかるため、山登り三昧という訳にはいきませんでした。富士山や、日本で2番目に高い北岳、3番目の間ノ岳（最新の測量で奥穂高岳と並ぶ3位タイに浮上）など、どうしても登っておきたかった山は制覇することが出来ました。

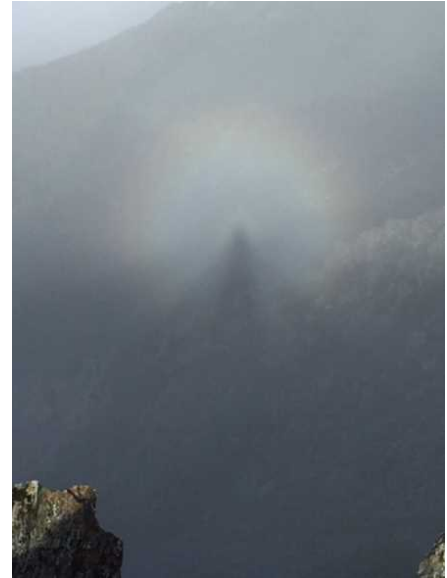
富士山は、赴任1年目の夏山シーズン終了間際に登りました。天候に恵まれ、景色を楽しみながらのんびりと登ることができ、頂上ではご来光も拝めて、良い思い出となりました。一方で、富士山が世界文化遺産に登録されたばかりということもあって大変な混雑で、日帰り弾丸ツアーと思いき団体客や、半袖半ズボンにサンダル履きという出で立ちの外国人観光客も見受けられ、混雑の緩和策や登山マナーの啓発がもう少し必要だと感じたところです。山小屋宿泊後に初めて高山病を発症し、軽い頭痛と吐き気に見舞

われたのですが、日頃慣れ親しんだ二日酔いと似た症状だったので後日調べてみたところ、どちらも脳の水ぶくれ（軽い脳浮腫）との説があり…、お酒で無用に脳を痛めつけてきた日常を省みる良い機会にもなりました。

北岳と間ノ岳は、2年目の夏に縦走しました。こちらは悪天候で視界が悪く、コースの難易度や時間もタイトでしたが、普段目にすることがない可憐な高山植物が咲くお花畑を眺めながらの登山は格別でした。北岳の山頂では、悪天候が幸いしてブロッケン妖怪に会うことができ、得がたい経験となりました。



富士山頂から眺めるご来光と山中湖



北岳山頂のブロッケン妖怪

このほかにも、甲府市最高峰の金峰山など幾つかの山に登りましたが、広大な山々を眺めながらいつも考えたのは、もしもこれらが恩賜林（県有林）やその他の民有林ではなく国有林であったら、山梨森林管理事務所の仕事のスケールも大きく変わっていただろうということです。



金峰山頂上から眺める富士山など広大な山々

6 恩賜林（県有林）について

山梨県内には34万7千haの森林がありますが、そのうち46%の15万8千haが県有林となっており、その割合の多さは他県に類を見ないものとなっています。これらは、明治時代の末期に相次いだ大水害の復興に役立てるため、明治44年、明治天皇が御料地を山梨県へ御下賜されたものであり、恩賜林と呼ばれています。

ただ、恩賜林成立までの経緯を郷土史等で調べると、単に陛下が被災した県民を哀れんで…というだけの話ではありませんでした。明治政府が山林原野の地租改正を開始し、明治14年の林野官民有区分によって、農民の入会地慣行があった山林が官有地化され、明治22年、これらの全てが皇室財産である御料地に編入されて入会地慣行が制限されたのですが、こうした措置には県民の強い反発があったようです。そのような中で発生した2度の大水害がトリガーとなって、県を挙げて御料地の無償還付誓願の運動が実施されており、恩賜林は、山梨県民が自らの手で明治政府から勝ち取った（取り戻した）財産と言えるのかもかもしれません。これぞまさに甲斐性があるということでしょうか。

現在、これらの恩賜林は、山梨県庁や各恩賜林組合等により管理経営がなされており、国内の公有林として最初にFSC森林認証を取得しています。

7 国有林について

先に述べた恩賜林成立の経緯から、山梨森林管理事務所が所管する国有林の面積は、4,667haと少なく、県内の森林面積に占める割合もわずか1%程度です。

しかしながら、主として次の三つの地域に分布している当所の国有林は、それぞれに特徴があり、なかなか魅力的です。

一つ目の甲府市の国有林は、市街地から北に4～5kmの場所にあり、古くから市民に「裏山」と呼ばれて親しまれてきました。このため、市民の憩いの場として活用されることを期待してレクリエーションの森に設定しており、国土保全や木材生産といった森林の機能の発揮に配慮しつつ、森林にふれあえる場として管理しています。

林内には遊歩道が整備されており、季節を問わずハイキングや軽登山が楽しめます。中でも、山梨百名山の1つとなっている要害山には、信玄公の父、信虎が敵の侵攻に備える詰城として築いた要害城の遺構が残り、頂上には信玄公誕生之地の碑があって、見所の一つとなっています。要害山のほかにも、苔むした石仏達がひっそりと佇む祠など隠れた名所があります。



要害山

また、山梨森林管理事務所では、甲府市内の複数の学校と「遊々の森」の協定を結び、身近な国有林を森林環境教育のフィールドとして提供しており、各校が森林教室や体験林業等の活動を行う際には、当所の職員も山の先生として参加しています。

二つ目は、富士吉田市にある諏訪^{すわのもり}森という大変見事な高齢級アカマツ林です。諏訪森は、「雪代」という富士山の雪解けに伴う土砂災害から下流部の集落や畑を守るため、寛永年間（1624年～1644年）に植栽されたとの記録が残っています。特別名勝富士山に含まれているほか、富士山世界文化遺産の構成要素である吉田口登山道の一部となっています。近年、松くい虫被害のまん延により、全国的にアカマツ大径木のまと

まった林分が少なくなっており、諏訪森は、学術・歴史・文化的に大変価値が高く、適切に守っていかなければならないアカマツ林であることから、松くい虫被害を未然に防止する薬剤の樹幹注入を実施しています。

また、現在の諏訪森は、時代の変化によって林内の下草・枝葉・枯木が燃料や肥料として利用されなくなり土壌が肥えて、アカマツ以外の広葉樹などが繁茂し林内が暗くなっています。このままでは新たなアカマツの発芽・生育が困難で、諏訪森をアカマツ林として維持できません。このため、27年度に試験地を設定し、広葉樹や下草、腐葉土層等を除去して光環境や土壌を改善することで、アカマツの天然更新を促すことが可能かどうか調査しています。現在、試験地内には多数のアカマツ稚樹の発芽が確認されており、これらがちゃんと生育してくれるかどうかを見守っているところです。



諏訪森のアカマツ

三つ目は、南部町と身延町の国有林です。静岡県に近く、海洋性気候の影響を受けて、比較的温暖で年間の降水量も多い地域であることから、優良なスギとヒノキの人工林が育っています。当事務所における主力の事業地となっています。



高性能林業機械を使用した丸太の伐り出し

本地域では、平成25年に山梨県峡南林務環境事務所と甲府水源林整備事務所、身延町森林組合、南部町森林組合並びに当所の5者で「身延・南部地域森林整備推進協定」を締結しています。同協定は、民有林と国有林が組織の垣根を越えて連携し、隣接するお互いの森林をより横断的・合理的な路網でつなぎ、分散している小規模な森林の団地

化や森林施業の集約化を進め、効率的に森林整備や地域材の利活用を促進することを目的としています。現在は、連携の基盤となる路網整備を重点的に進めているほか、毎年、合同の技術交流会等を開催して、施業の低コスト化やシカ被害対策の推進に関する意見交換等を行っています。

8 野呂川の治山事業について

過去に山梨県内で発生した水害については、実にたくさんの記録が残っており、古いものだと8世紀からあるようです。先に少しだけ触れた信玄堤が、釜無川や御勅使川を治めることを主眼においていたことから、当時の水害の発生源の一つが南アルプス山系であったことは容易に想像できますが、まさに、南アルプス山系は、糸魚川ー静岡構造線と中央構造線に挟まれて、断層及び地層のねじれ等を受けており、大変に崩れやすい地質となっています。

山梨県からの要請を受けて、当所が昭和34年度から国直轄の治山事業を実施している野呂川県有林も、やはり南アルプス山系の北岳を源流とする早川支流野呂川の流域にあり、地質は脆弱です。昭和34年と昭和57年の大水害等により被害を受けた約9千haのエリアを対象に、60年近く事業を積み重ねてきた結果、荒れていた沢の多くに緑が回復し、下流への土砂の流出量も少なくなってきました。

昭和57年災害直後の状況(野呂川地区・広河原・西ゴウ口沢)



治山事業による復旧の例(野呂川地区・広河原・大樺沢)



荒廃状況(S40)



工事実施後(S62)



現在の状況(H24)

9 今後の取組について

現在、全国の国有林において、林業の成長産業化と地方創生に向けて、施業の低コスト化、その民有林への普及に取り組んでいます。当所においても、28年度から、間伐事業の安全性と効率性の向上を図るため、従来の伐採木を単木的に選定して点状に抜き伐りする手法から、植栽列や斜面方向に沿って直線的に伐採列を決めて間伐する列状間伐という手法への転換を進めています。列状間伐の実施によって、労働災害の原因となりやすい危険なかかり木の発生を抑えられるほか、伐倒・搬出コストの低減が期待できます。29年度以降は、主伐と再造林の一貫作業による施業の低コスト化にも取り組みます。従来は、「伐採・搬出」と「地拵え・植付け」を別々の事業として、時間をかけて発注していましたが、これらを一貫の作業としてまとめて契約し、伐採・搬出時に用いる機械で地拵えを一緒に行うとともに、裸苗よりも植栽の季節的制限が少なく作業効率が良いコンテナ苗を機械で現場へ運んで植栽することで、大幅な作業効率の向上と労力軽減が期待できます。更なる低コスト化に向けて、植栽する苗木の本数を、現地の地力に応じて従来の3千本/haから2千本/haまで見直すことや、造林地の下草の繁茂状況に応じて下刈り回数を必要最小限に抑えることにも取り組んでいきます。

また、これらの取組が民有林にも広く普及していくよう、山梨県庁をはじめ、関係する機関や事業体等と密に連携を取りながら、施業の低コスト化をテーマとした技術交流会の実施等に取り組んでいきたいと考えています。

また、近年山梨県でも大きな問題となっているシカによる森林被害に対応するため、当所では、28年度からシカの捕獲事業をはじめました。事業の検討段階から、研究者や県・市町村の職員等の関係者と協議を行い、地域のニーズを踏まえて甲府市と山梨市の国有林を対象エリアとし、入山者が多いことから銃猟ではなく、くくりわな猟を行うこととしました。山梨県猟友会へ発注した請負事業では、捕獲と並行して定点カメラによるシカの生息状況を調査しています。当所の職員自らも、甲府市の国有林において地元猟友会の指導のもと、くくりわなによるシカの捕獲を開始しました。29年度以降も、これらの成果を踏まえて、より効果的なわなの設置方法や場所等を検討し、捕獲の精度を高めながら継続的に事業を実施して行く予定としています。

10 むすびに

赴任後しばらく経って仕事にも慣れてきた頃、風林火山のオマージュで山梨森林管理事務所の所訓を作ってみました。所訓というよりも、むしろ自分自身の目標と言った方が近いのですが、とにかく、ワークライフバランスを重視して家族と過ごす時間を十分に確保しつつ、メリハリをつけて仕事を頑張り、新しいことにも情熱を持って取り組む、小粒でもぴりりと辛い山椒のような山梨森林管理事務所を目指しています。

